

すべりました。また、おとうさんと私と映子ちゃんて雪をほって、ほら穴を作りました。でも、こんなことは、どこでもできます。そこらじゅうが銀世界なのです。カナダで一番美しいのは冬だと思えます。

雪もつけて、家族でサーカスを見に行きました。とってもおもしろくて、動物がたくさん出てきたのをよくおぼえています。二回ぐらい見ました。日本とちがってサーカスは、よくあるのです。

私たちは夏にカナダにきました。あれから、秋が過ぎ、冬が過ぎ、春が過ぎ、また夏がめぐって秋が過ぎ、冬が過ぎ、春が過ぎました。ちょうど二年たちました。私たちが日本へ帰る日が来たのです。

その日、朝早くから飛行場へ行きました。ミラー家のおくりに来てくれるはずだったので、私たちは待っていました。なかなか来なくて、もう行かなくてはならなくなりました。その時、やっとミラー家がかけてきました。ぎりぎりだったので、あまり話はず、あいさつをかわして手をふるだけです。とてもとても、つらかったです。本当に本当につらかったです。

今、私は十二才。あれから七年ほどたったのです。そして、また妹の「清子」が生まれました。今、三才の子です。そんなとき、東京にミラー家が来ることになりました。そして、東京へ行く前に日本のことを少しでも知るために、大阪の私たちの家へ一週間泊まることになったのです。七月二十九日から八月四日まで、夏休みの間です。私はもう、わくわくするばかりです。そして、最初に会っ

たときはびっくりしました。同じ年のはずのアンドリアが、大人に見えたからです。でも、一週間のうちに、すぐなれて仲良くなりました。外人も日本人もひとつもちがいません。じょうだんを言うところや、ふざけたりするところなんて、日本人以上です。一週間に、アンドリアがトランプの遊びや他のゲームを教えてくださいました。私たちもトランプ、オセロゲーム、将棋を教えてあげました。とても、なつかしい気がしてなりません。

た。とうとうミラー家は東京へ行くことになりました。アンドリアは、おわかれの言葉をノートに書いてくれといいました。私は、てれてしまつてうまくかけませんでした。そして、その後、私も同じことをたのんで書いてもらいました。いろいろな言葉もよかったです。最後の「うこへ」という詩はとても心に残りました。

広い広い海があり  
その海の深い深いところに  
ひとつの岩がありました。

岩には三つの言葉がぎざまれています。  
私を 決して 忘れないで

円の線をたどっていつてもきりがないうように  
私たちの仲もこの円のように  
かぎりのないものであるように。

この詩はいつも私の心の宝ものです。私は、アンドリアを飛行場まで送りに行きませんでした。カリーおばさんとアンドリアが、泣いていたそうです。私たち姉妹も泣きました。また、会えることがわかっていても泣きました。でも、十月

にまた来るそうです。そして私たちがいつかは東京へ行きます。本当に、私はしあわせです。小さい時のカナダの友と再会できるなんて。

おあさんが言っていました。外国というところ、どこか未知の、自分とは関係のない国のように思うけど、そこに一人の友ができる、その国はもう親せきの国

## 新しい世界へ向けて

佐藤修

(千葉県我孫子市 会社員)

### はじめに

カナダは、ほとんどの日本人にとって、ロマンや夢を思わせるもの、決して身近かな国ではない。むしろ、日本とは異なる国としてイメージされているように思われる。

カナダと聞いて、まず頭に浮かぶのは、美しいカナディアン・ロッキーであり、広大なプレーン地帯の小麦畑であり、無数の湖沼と河川であろう。しかも、それらはすべて、日本とは規模の全く異なる大きさをもっている。

単に広いだけではない。日本との違いをさらに大きなものとしているのは、その広さに対する人口の少なさであろう。カナダの国土面積は、日本の二十七倍、それに対し、人口は東京の二倍にしかす

になる。ミラー家がおじさんの休みの年を日本で送ることに決めたのも、私たちのいる親せきの国、という気がしたからだそうです。私にとってカナダは、ジョンおじさん、カリーおばさん、アンドリア、ブライアン、その他いっぱいすばらしい友だちのいる親せきの国なのです。

ぎなのである。狭い国土に、多数の人々が生活している日本にとっては、望み得ない夢が、そこにはある。

カナダは、また、移民の国といわれる。少数のインディアンやエスキモーを除く人口のほとんどが、最近、この広大なカナダにやってきた人々である。その中には、約四万人の日系カナダ人も含まれる。様々な民族が、それぞれの歴史を背負ったまま集まっている。統合された国家としては、非常に若い国であるといつてもいい。この点も、日本とは大きく異なるところであろう。

石油、鉄鉱石、ニッケル、ウランなど、鉱物資源やエネルギーの豊かなこともまた、日本と異なるところである。カナダは、資源においても豊かな国である。